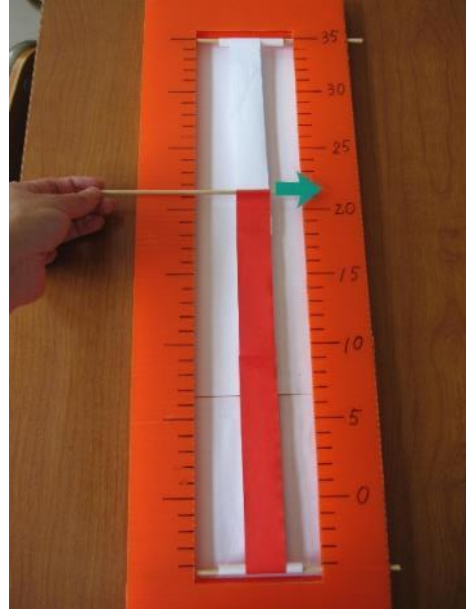


教材教具および題材	学部	授業名（主たる教科領域）	執筆者
アナログ寒暖計	中	生活 (理科)	高木

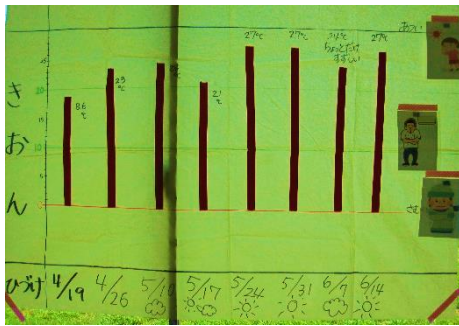
<ねらい>

- 気温の変化の学習において、自分で目盛を合わせることで、
 - ① 温度の高低を動きで理解する。
 - ② 目盛をしっかりと見る。



<内容（作成方法・使用方法・工夫点など）>

- 「毛細管」にあたる場所は、帯状の白い紙と赤い紙をつなげて輪にすることで、高い温度表示から低い温度表示に移動させられるようにした。
- 目盛は実際に使用する寒暖計にあわせて、5ずつの間隔で数字を書き込んだ。



- ひと目盛を、1 cm にし、気温を確認した後、紙テープでその長さの物を作り、前回の観測のものと比較したりした。
- どこを指し示すのかがわかりやすいように、矢印マークを付けた。

<良かった点・改善点（児童生徒の反応を含め）>

- 生徒たちは、実際に自分で動かせる教材を好むので、教師や友達が操作する様子をとても興味深く中止することができた。
- 実態に応じて、目盛に1ずつ数字をふる工夫をしてもよい。今回は、目盛を動かしながら「25、6、7…」と一緒に数えながら操作をすることで、目盛を指す矢印マークの先をしっかりと注目することができた。

<その他（材料、費用、購入先等）>

プラスチックダンボール（教材室にあったもの、百円均一のお店にもあります。）
 竹ひご（竹串でもよい。）
 ストロー
 白と赤の折り紙